平成 31 年度予算主要事業の概要

（事業別説明資料）

教育委員会事務局

HIDA CITY
飛 驒 市

＊元号の表記について

「平成」は平成 31 年４月 30 日までとなりますが、新しい元号がまだ決定していないため、
本冊子においては同年５月１日以降についても「平成」により表記します。

目　　次

飛騨市学園構想の推進 …… 1

保小中連携教育の推進 …… 2

小学校英語教育の推進 …… 3

児童生徒支援員の研修 …… 4

ICT を活用した授業づくり …… 5

学校図書館における情報センター機能の整備 …… 6

部活動指導員の配置 …… 7

飛騨市美術館リニューアルの基本設計 …… 8

「飛騨の糸引き工女」の史実調査・研究 …… 9

飛騨市ゆかりの郷土作家作品展の開催 …… 10

山城発掘調査・埋蔵文化財発掘調査事業 …… 11

姉小路氏城館跡の保存活用推進 …… 12

江馬氏城館跡の保存活用推進 …… 13

古川祭史の研究 …… 14

図書館自主イベントの開催 …… 15

桜ヶ丘体育館健康増進トレーニング室の整備 …… 16

スポーツ施設の計画的な整備及び改修 …… 17

ノルディックウオーキングの普及推進 …… 18

ねんりんピック岐阜 2020 リハーサル大会の開催 …… 19

飛騨市公民館講座の体系化と各団体の紹介支援 …… 20

新規　飛騨市学園構想の推進

１ 事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
5,069	県支出金	2,504	謝礼	1,212
	ふるさと創生基金	2,500	旅費	547
	一般財源	65	その他	3,310

（前年度予算　　0　）

２ 事業背景・目的

今、学習指導要領改訂や大学入試改革など、知識中心の教育から課題解決能力の育成や、主体的・対話的で深い学びの実現にシフトするなど、学習環境は大きく変わりつつあります。

市では、市内全ての保育園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校を一つの大きな「飛騨市学園」と見立て、①「課題解決能力を育む」保小中高一貫カリキュラムの作成と試行実施、②学校と家庭・地域が飛騨市の子どもの育成について目標やビジョンを共有し、連携・協働するためのコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入、③各校種間交流等の実施の３本柱を掲げ、構想の実現を目指します。

３ 事業概要

①　飛騨市学園構想（コミュニティ・スクール導入）検討・準備（4,889千円）

(1) 飛騨市学園構想検討委員会の実施

飛騨市学園構想アドバイザーを１名配置し、各学校との調整や学識経験者からの意見徴収等をおこなうとともに、毎月１回、教員やPTA等関係者による検討委員会を実施し、飛騨市学園構想全体のビジョンやコミュニティ・スクールの導入、保小中高一貫したカリキュラムの検討をおこないます。

(2) 検討委員会の意見を参考に飛騨市学園構想リーフレットを作成します。

(3) TV会議システムを導入した合同授業の実施

特に市内の小規模校を対象として、TV会議システムを活用した合同授業等を実施します。

②　コミュニティ・スクール推進委員（文科省）の招聘（24千円）

飛騨市独自のコミュニティ・スクール導入に向け、文部科学省が認定するコミュニティ・スクール推進委員を招聘し、アドバイスをいただきます。

③　小中一貫学園、コミュニティ・スクール等先進地区視察（156千円）

（款）	10 教育費	（項）	1 教育総務費	（目）	2 事務局費
所　属	教育委員会事務局学校教育課　℡0577-73-7494			予算書	P.116

拡充　保小中連携教育の推進

１ 事業費（単位：千円）

【財源内訳】		【主な使途】	
380	一般財源　380	謝礼	104
		旅費	199
		印刷製本費	77

（前年度予算　302　）

２ 事業背景・目的

初等教育期の課題として家庭状況や社会の急激な変化により、小学校１年入学当初に環境変化に適応できずに登校渋りをする児童が増えています。また、小学校と比較して中学校では相談室登校や不登校生徒の出現率が高くなっています。

このような課題に対応し、保育園・小学校・中学校の12年間を見通した一貫性のある指導により、保小中の生活面・学習面の指導・取組みについて、早期からの教育支援を行い、個に徹した指導の充実や不登校児童生徒の未然防止を図ります。

平成30年度は、保小中連携教育推進委員会を開催し、園児や児童生徒の実態等を交流して理解を深め、飛騨市版アプローチ・スタートカリキュラム、小学校新１年生保護者向けリーフレットの試案を作成しました。

平成31年度は、飛騨市版アプローチ・スタートカリキュラムの実践・検証・修正を行うとともに、保護者向けリーフレットを完成して保護者に配付し、家庭・保育園・小学校が連携して入学の準備に取り組める環境を整えます。

３ 事業概要

①【拡充】小学校新1年生保護者向けリーフレットの作成、印刷（77千円）

小学校生活に向けて家庭で取り組む内容をリーフレットにまとめ保護者に配付します。

②【継続】保小中連携教育推進委員会の実施（110千円）

保小中連携教育の推進を目的とした保・小・中職員、有識者、保小中連携アドバイザー（飛騨市教育研究所次長が兼務）による委員会を年３回実施し、飛騨市版アプローチ・スタートカリキュラムの実践・検証・修正をおこないます。

③【継続】保小合同研修会の実施（37千円）

保育園・小学校職員合同研修会を企画・実施します。

④【継続】保小中連携教育先進視察（156千円）

保小中連携教育・一貫教育の先進地域等への視察（特に保小の連携）

（款）	10 教育費	（項）	1 教育総務費	（目）	2 事務局費
所　属	教育委員会事務局学校教育課　℡0577-73-7494			予算書	P.116

拡充　小学校英語教育の推進

１ 事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
5,698	ふるさと創生基金	5,568	賃金	5,568
	一般財源	130	謝礼	130

（前年度予算　　5,635　）

２ 事業背景・目的

平成32年度から全面実施となる小学校新学習指導要領では、小学校の英語授業を３・４年生が35時間、５・６年生が70時間の実施を示し、小学校３・４年生から英語の音声に慣れ親しみながらコミュニケーション能力の素地を養うこと、さらに５・６年生では身近なことについて英語の基本的な表現によって「聞く」「話す」に加え、積極的に「読む」「書く」を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことが求められています。

市では、平成30年度に英語指導講師２名を配置し、学級担任と連携しながら授業をおこなうことで、子供たちに英語でコミュニケーションすることの楽しさを感じてもらうことができました。

平成31年度は、教員や英語指導講師の指導力の向上のための研修を充実し、発音・語彙・文法等の間違えを恐れずに積極的に英語を使ってのコミュニケーション能力を高めることができる児童の育成を目指します。

３ 事業概要

①　【拡充】英語教育の専門講師による小学校英語出前研修の実施（120千円）

教員の英語指導力向上を図るため、市内６小学校での外部講師による出前研修を年２回実施します。

②　【継続】英語指導講師（英語科教員免許所有者）２名の配置（5,568千円）

小学校３年生、４年生の英語授業を補助する講師を配置し、英語嫌いな児童をつくらないための丁寧な学習を行います。

③　【継続】英語体験教室の実施（10千円）

夏休みにALTを交えた英語体験教室を行い、子供がゲームや調理実習等の取り組みを通して、英語を学ぶ機会を作ります。

④　【継続】英語教育先進校視察

教職員が英語教育における先進小学校を視察し、授業指導の手法を学びます。

（款）	10 教育費	（項）	1 教育総務費	（目）	2 事務局費
所　属	教育委員会事務局学校教育課　℡0577-73-7494			予算書	P.116

拡充　児童生徒支援員の研修体制整備

１ 事業費（単位：千円）

【財源内訳】		【主な使途】	
242	ふるさと創生基金　242	謝礼	156
		旅費	86

（前年度予算　　76　）

２ 事業背景・目的

市では、市内の小中学校に児童生徒支援員を配置し、様々な支援を必要とする児童生徒に対して学習面・生活面の活動を支援し、その子の困り感の軽減を図り、落ち着いて活動に取り組むことができるようにしています。

児童生徒支援員が今後さらに個に応じた適切な支援を行うためには、児童生徒の発達段階や困り感を理解するための知識や資質を向上させる研修の充実が必要になります。

平成30年度は、５月と１月に専門講師を招いて全体研修を実施し資質向上を図ったところです。

平成31年度はさらに、各学校に専門講師を派遣して、全体研修で学んだ理論を踏まえた各学校の実践事例を基にした事例研修を実施し、対象の児童生徒に対してより個に応じた適切な支援ができるようにします。

３ 事業概要

○全体研修　　専門講師により年２回実施（５月、１月予定）

○個別研修　　市内小学校４校、中学校２校（児童生徒支援員無配置の宮川小学校・山之村小中学を除く）に専門講師を派遣し、支援が必要な児童生徒の事例研修を各校１回実施

（款）	10 教育費	（項）	2 小学校費	（目）	2 教育振興費
（款）	10 教育費	（項）	3 中学校費	（目）	2 教育振興費
所　属	教育委員会事務局学校教育課　℡0577-73-7494			予算書	P.120、122

新規　ICT を活用した授業づくり

１ 事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
57,492	ふるさと創生基金	742	旅費	156
	過疎債	52,100	使用料	4,154
	一般財源	4,650	工事請負費	53,182

（前年度予算　　0　）

２ 事業背景・目的

平成 32 年度から全面実施される新学習指導要領では、情報活用能力を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけ、その育成を図るための環境整備が求められており、ICT 環境の整備は急務となっています。市では、平成 30・31 年度の２ヵ年において、パソコン教室の PC をデスクトップ型からタブレット端末に切り替え、ICT を活用した授業づくりの環境を整備し「自ら学び未来を切り拓くことのできる人づくり」を進めてきました。

平成 31 年度は市内小中学校において、固定式電子黒板等を整備し、ICT を活用した授業づくりの実践を行うことで、直面する課題を主体的に解決するために必要な「課題解決能力」や「情報活用能力」等を育みます。

３ 事業概要

① 市内小中学校のICT環境を整備（57,336千円）

小学校４年生以上と中学校全学年の普通教室54室に電子黒板（固定式プロジェクター型）、無線LAN環境、授業用PCを整備します。併せて、小学校４教科（国・社・算・理）と中学校５教科（国・社・数・理・英）のデジタル教材（教科書）を導入します。このICT環境の整備により、以下のような授業改善が期待できます。

○電子黒板やデジタル教科書の導入により、映像やシミュレーション等の多様な教材が活用でき、児童生徒が学習内容をより確かに理解することにつながる。

○無線LANやタブレット型PCとの併用により、児童生徒が多様な意見にふれたり他者と活発に意見交流したりして、自らの考えを広げ深めることにつながる。

② ICT教育先進地視察（156千円）

ICT教育を推進している先進地域を視察し、よりよい授業づくりを進めます。

（款）	10 教育費	（項）	2 小学校費	（目）	2 教育振興費
（款）	10 教育費	（項）	3 中学校費	（目）	2 教育振興費
所　属	教育委員会事務局学校教育課　℡0577-73-7494			予算書	P.120、122

新規　学校図書館における情報センター機能の整備

1　事業費（単位：千円）

【財源内訳】		【主な使途】	
1,043	ふるさと創生基金　1,043	備品購入費	1,043

（前年度予算　　0　）

2　事業背景・目的

市では、これからのグローバル化や情報化等により変化が激しい予測困難な時代を生き抜くためには、「情報モラルを身に付け、情報を適切に収集・発信する能力」や「他者と意見を交流し、考えを広げ深める能力」を育成することが重要であると考えており、そのためには、様々な書籍から情報を収集できる学校図書館にインターネット環境を整備することにより、様々な媒体から情報を収集し、子どもたちが対話による主体的な学習ができる環境を整えることが必要です。

このことから、平成 31 年度は、図書館教育や情報教育に力を入れている神岡小学校をモデル校として、学校図書館の環境を整えるとともに、その教育効果の検証をおこないます。

3　事業概要

①　組み合わせを変えられる机の導入（975千円）

学校図書館に話し合いの人数に応じて場所や形を自由に変えられる机を導入し、少人数でも大人数でも対話しやすい環境を整備します。

②　インターネット環境の整備（67千円）

学校図書館にWi-Fi環境を整備し、タブレット端末等を活用した情報収集など、児童の主体的な学習環境を整えます。

（款）　10 教育費	（項）　2 小学校費	（目）　1 学校管理費	
所　属	教育委員会事務局学校教育課　℡0577-73-7494	予算書	P. 119

新規　部活動指導員の配置

１ 事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
1,410	県支出金	940	賃金	1,320
	一般財源	470	費用弁償	90

（前年度予算　　0　）

２ 事業背景・目的

中学校の部活動は、生徒数の減少やニーズの多様化、指導者の不足、教員の多忙化など、様々な課題に直面しています。本市においても、生徒数の減少による部活動の休部や他校との合同チームの編成、地域スポーツクラブや文化的教室等への参加と学校の部活動の全員入部の兼合い、教員数減少に伴う顧問数の不足と長時間労働など、様々な課題を抱えています。

このことから、部活動がその教育効果を十分に発揮し、生徒や保護者にとって有用なものとなるために、市の現状を踏まえた「部活動指針」を定めるとともに、不足する指導者を補い、教員の多忙化を解消するために「部活動指導員」を配置し、部活動の教育効果の向上を図ります。

３ 事業概要

部活動指導員（市雇用非常勤職員）を古川中学校、神岡中学校に計４名配置し、週８時間程度、年間 400 時間を上限に、部活動の顧問として指導に当たります。これにより、教員が不在でも、単独での部活指導や大会等の引率が可能となります。また、教育委員会や学校で指導員研修を実施し、指導技術の向上や生徒理解に努めます。

（款）	10 教育費	（項）	3 中学校費	（目）	2 教育振興費
所　属	教育委員会事務局学校教育課　℡0577-73-7494			予算書	P. 122

新規　飛騨市美術館リニューアルの基本設計

１ 事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
10,000	文化・交流振興基金	10,000	委託費	10,000

（前年度予算　　0　）

２ 事業背景・目的

飛騨市美術館は、空調設備の老朽化などが進み、移動美術展など連携を深める岐阜県美術館から美術作品を借りる際の大きな支障となっています。また、美術品を格納する収蔵庫も狭いことから、適切な空調等で管理した安全な収蔵庫の整備などが課題となっています。

このことから、美術品の適切な管理のもとで魅力ある美術館運営を行なうために、平成29年度に掲げた市美術館コンセプトを踏まえたうえで、空調設備の更新や収蔵庫の拡張、道路側壁の防音補強、さらには研修室の壁を展示可能な壁に変更するなど、多岐にわたる文化芸術活動に対応できる機能の向上を達成できるよう基本計画を策定し、芸術文化創造の中核を担う飛騨市ならではの特徴を持つ美術館としてリニューアルを推進します。

３ 事業概要

外部有識者で構成する「（仮）美術館改修検討委員会」を立ち上げ、１年間をかけて飛騨市美術館の現状分析と課題を拾い出し、リニューアル改修に向けた計画・設計を行い、平成32年度以降の整備を目指します。

※【飛騨市美術館コンセプト】

活動が限定的なイメージを持つ（美術館）から文化芸術に関わる展示活動・芸術活動・研究活動・人材開発活動・記録活動などと多岐にわたる文化芸術活動に対応できるアートセンター（文化芸術センター）を目指す。

（款）	10 教育費	（項）	4 社会教育費	（目）	7 文化施設費
所　属	教育委員会事務局文化振興課　℡0577-73-7496			予算書	P.128

拡充　「飛騨の糸引き工女」の史実調査・研究

1 事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
2,794	ふるさと創生基金	1,470	賃金	1,460
	参加者負担金	30	通信運搬費	968
	一般財源	1,294	その他	366

（前年度予算　4,958　）

2 事業背景・目的

平成30年度より専門調査員１名を新たに雇用し、明治期の日本の産業近代化の礎として信州の製糸産業に貢献した「飛騨の糸引き工女」を調査・研究を開始し、これまでの成果を「三寺まいり」の時期に合わせ、市美術館にてプレ展覧会を開催しました。

映画「あゝ野麦峠」の影響で女工哀史のイメージが強いですが、当時貴重な現金収入を得て飛騨に残る家族の生活を支えたことや、岡谷での暮らしは福利厚生が充実していたなど史実に基づく歴史考証を実施し、平成32年度を目途に古川町のまちなかに「明治・大正・昭和初期の飛騨近代史」を伝える常設展示館の設置を目指します。

また、市内に残る工女さんゆかりの場所である本光時の玉垣や旅館、ブロンズ像を巡る「三寺巡りコース」を設定するなど、回遊スポットを増やすことで、まちなかの賑わい創出につなげます。

3 事業概要

①　【新規】企画展の開催（1,324千円）

正月に里帰りした工女にゆかりのあった伝統行事「三寺まいり」の時期に合わせ、年次成果のまとめとして市美術館において企画展を開催します。

②　【継続】史実調査・研究（1,470千円）

・近代史に残る信州の製糸産業及び飛騨の糸引き工女に関する史実調査、工女が携わった信州での仕事・教育・生活・文化の詳細な検証、信州側・飛騨側の双方から見た工女達への評価の違い、映画化された小説「あゝ野麦峠」の脚色と史実との違いを検証します。

・工女が活躍した明治から大正、昭和初期の飛騨の歴史変遷を「飛騨の近代史」として資料と共にまとめます。

・飛騨の近代を表現する展示館を開設する場合の基本構想、展示品リストの作成、展示館運営計画、市内他施設との連携手法、岡谷市等との連携手法の構築を図ります。

（款）	10 教育費	（項）	4 社会教育費	（目）	3 文化振興費
所　属	教育委員会事務局文化振興課　℡0577-73-7496			予算書	P.124

継続　飛騨市ゆかりの郷土作家作品展の開催

１ 事業費（単位：千円）

		【財源内訳】		【主な使途】	
	1,698	参加負担金	35	報償費	90
		一般財源	1,663	需用費	640
				役務費	968

（前年度予算　　2,051　）

２ 事業背景・目的

飛騨市にゆかりのある作家の作品や、飛騨市が舞台となっている芸術文学作品などは数多くありますが、市民の皆様にはまだまだ知られていない作品があります。このような作品に光を当て、市民はもとより観光客等にも広く鑑賞していただき、ふるさと飛騨の良さや誇りを感じてもらうことを目的に、飛騨市美術館において企画展を開催致します。

小さな美術館だからこそできる企画展として、単に作品を観るだけに終わるのではなく、学びや関心・知識を習得する機会提供を通じ、飛騨の文化振興を図ります。

３ 事業概要

・仮称「徳永富士子展」　４月中旬～６月上旬

大阪出身の徳永富士子氏は、飛騨の美術を先導した女流作家であり、東光会・日展に連続入選するなど中央画壇で活躍した天才画家として今に語り継がれています。疎開時に飛騨に拠点を移し、当時荒廃していた飛騨の文化再興に尽力されたことは、多くの作家に知られており、今回、遺族の協力を得て貴重な作品を千葉県内の工房から借用し展示します。

・「山中和紙で魅せる風景写真展」　７月上旬～８月下旬

写真家村田彰氏（名古屋市在住）による写真展を開催します。蛇腹の大判カメラ、フィルムで撮影した飛騨の風景を山中和紙にデジタルプリントするユニークな写真展です。最新のデジタル技術と伝統工芸品である「山中和紙」とが融合した作品を鑑賞していただきます。

・「飛騨の糸引き展」　１月上旬～２月下旬【再掲】

岡谷蚕糸博物館の協力を得て、飛騨の女工展を開催し、当時の女工さん達の仕事内容や暮らしを学習する機会を提供します。また、糸引き関連のワークショップを催し、当時の女工さん達の偉業を偲びます。

（款）	10 教育費	（項）	4 社会教育費	（目）	7 文化施設費
所　属	教育委員会事務局文化振興課　℡0577-73-7496			予算書	P.128

拡充　山城発掘調査・埋蔵文化財発掘調査事業

1　事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
20,000	国庫支出金	10,000	賃金	2,510
	一般財源	10,000	需用費	105
			委託料	17,385

（前年度予算　　53,408　）

2　事業背景・目的

平成29年度から本格的に着手した姉小路氏関連城館跡の発掘について、平成30年度には、その中の一つである古川城跡で発掘調査を実施したところ、礎石建物跡やかわらけ、石垣による枡形虎口が見つかり、織豊政権時代に新たな領土支配に城郭が重要であったことを示す全国的にも貴重な事例となる成果を得ました。今後も、他の関連城跡の発掘調査を実施し、平成34年度を目途に国指定史跡を目指します。

また、埋蔵文化財の対応については、遺跡内での開発は、試掘確認調査と工事掘削で遺跡が壊される前の本発掘調査を実施し、開発事業と遺跡保護との調整を図ります。

3　事業概要

①　【拡充】山城等発掘調査測量事業（11,395千円）

・姉小路氏関連の「野口城」「向小島城」「小鷹利城」の発掘調査を実施します。

・姉小路氏関連の「小島城」から、織豊時代の技法と思われる貴重な石垣が発掘されたことから、石垣測量を実施します。

②　【継続】詳細分布・試掘確認調査事業（8,605千円）

・住宅建築や公共事業など開発が予定される土地の埋蔵文化財の所在、範囲、深さなどを明らかにし、開発と文化財保護との円滑な調整に対応します。

・岐阜県と協力・連携して「寿楽寺廃寺跡」の調査を更に進めます。

③　【継続】江馬氏城館跡関連事業（ゼロ予算）

・江馬氏城館跡関連では、「傘松城」は文化庁より国指定追加レベルと評価されたことから、平成 30 年度に測量調査を終了しました。今後、国史跡指定の追加に向けた準備を進めます。

（款）	10 教育費	（項）	4 社会教育費	（目）	4 文化財保護費
所　属	教育委員会事務局文化振興課　℡0577-73-7496			予算書	P.124～125

拡充　姉小路氏城館跡の保存活用推進

1　事業費（単位：千円）

		【財源内訳】		【主な使途】	
	1,621	ふるさと創生基金	1,621	看板作成料	196
				委託料	1,158
				その他	267

（前年度予算　　2,123　）

2　事業背景・目的

中世の国司・姉小路氏の居所であった城館群（小島城跡、古川城跡、向小島城跡、小鷹利城跡、野口城跡）は、文化庁の中世城館遺跡検討委員会において国史跡レベルの価値があると評価されました。これを受けて、平成29年度に調査指導委員会を設置して、専門家の指導の下、総合調査を実施し、平成34年度の国指定史跡の登録申請へ向けて事業を進めています。

今後、姉小路氏の史実解明と各山城の調査研究を行い、それぞれの城跡に適した整備を進め、貴重な歴史遺産を後世に継承し、この誇りうる史跡を個性豊かな地域づくりの核として活用することで観光振興ならびに地域の活性化を図ります。

3　事業概要

①【拡充】総合調査活用事業（990千円）

発掘調査、測量調査、文献資料調査等を実施し、史実に基づく新たな内容を広く告知します。また、姉小路氏城館跡関連の記録映像を作成し、文化財WEBサイトおよびSNS等で山城の魅力を広く発信します。

②【拡充】「古川城」山城復元想像イラストの作成（168千円）

当時の山城の姿を分かりやすく示すために、小島城に引き続き古川城の山城復元想像イラストを作成します。

③【継続】姉小路氏関連山城セミナーの開催（463千円）

平成29年度から実施している姉小路関連「山城セミナー」が好評であることから、引き続き開催して全国の山城ファンの誘客に繋げます。発刊済みの「山城マップ・姉小路編」を活用し、一般者が登城可能な「小島城・古川城・小鷹利城」に誘導して山城の魅力を発信します。

（款）	10 教育費	（項）	4 社会教育費	（目）	4 文化財保護費
所　属	教育委員会事務局文化振興課　℡0577-73-7496			予算書	P.124～125

拡充　江馬氏城館跡の保存活用推進

１ 事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
2,168	ふるさと創生基金	2,168	需用費	1,083
			委託料	968
			その他	117

（前年度予算　　2,449　）

２ 事業背景・目的

江馬氏城館跡は、江馬氏が支配していた６つの山城群（高原諏訪城跡、土城跡、寺林城跡、政元城跡、洞城跡、石神城跡）と下館跡は一体となって機能し、領地を支配していたことを示す貴重な遺跡であるとして昭和55年に国史跡に指定され、更に平成29年度に庭園と会所部分が国の名勝（江馬氏館跡庭園）に指定されました。

このことから、市では史跡等の保存活用計画を策定し後世に継承するとともに、この誇り得る史跡と平成31年３月にオープンする「ひだ宇宙科学館・カミオカラボ」との連携を図り、飛騨の歴史や最先端科学が学べる特徴あるまちづくりを推進します。

３ 事業概要

①　【新規】SNSを活用した名勝のPR・誘客（1,567千円）

全国で唯一、庭園と会所をセットで復元した「江馬館」を広く PR するため、史跡の写真を SNS に投稿していただいた方にノベルティグッズをプレゼントするキャンペーンを実施するとともに、飛騨市の城「公式ロゴマーク」を作成し、全国に情報発信します。また、「カミオカラボ」に名勝に誘客する PR チラシ等を置くことで入館者の増加を促すとともに観光客の神岡町内での滞在時間の延長を図ります。

②　【拡充】歴史講座＆もてなし饗応食の体験（433千円）

江馬氏に関連する「歴史講座」を昨年に引き続き開催し、全国の歴史ファンの誘客につなげるほか、スカイドーム内の飲食店と連携し、かつて江馬氏が会所で客人をもてなしたであろう「江馬・室町饗応膳」の市販化を支援し、食文化から歴史を学ぶ機会を創出します。

③　【拡充】県史跡「傘松城」山城復元想像イラストの作成（168千円）

国指定史跡への追加を目指す県史跡「傘松城」の意見具申の準備を行います。当時の山城の姿を分かりやすく示すために「山城復元想像イラスト」を作成します。

（款）	10 教育費	（項）	4 社会教育費	（目）	4 文化財保護費
所　属	教育委員会事務局文化振興課　℡0577-73-7496			予算書	P.124～125

継続　古川祭史の研究

1　事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
2,411	一般財源	2,411	賃金	2,230
			旅費	71
			需用費	110

（前年度予算　　2,332　）

2　事業背景・目的

「古川祭」に関する公的資料は「平成元年の古川祭」「国指定重要無形文化財・古川祭」「三光台組の歩み（匠の心と町民文化）」が刊行されていますが、屋台組が所有する資料や民間研究者の文献資料を基に、古川祭の史実を再検証します。

この史実検証に加え、ユネスコ無形文化遺産に登録された今後の取り組みや、祭を支える氏子減少など継承にあたっての諸課題をまとめた「古川祭史」の発刊を平成33年度を目途に目指します。

3　事業概要

①　古川祭関係者への取材及び屋台組資料の確認作業

千代の松原公民館内に設置した歴史文化調査室において、引き続き古川祭に係る貴重な歴史文献資料を集積・整理するとともに、祭関係者への取材ヒアリングや屋台組が所有する資料の確認作業をする中で、研究紀要の発行に努めます。

②　成果発表会の実施

調査研究した成果については、年度末に報告会を開催し、市民に祭文化への意識高揚と継承への気運向上を促進します。

（款）	10 教育費	（項）	4 社会教育費	（目）	4 文化財保護費
所　属	教育委員会事務局文化振興課　℡0577-73-7496			予算書	P.124～125

継続　図書館自主イベントの開催

1 事業費（単位：千円）

		【財源内訳】		【主な使途】	
	690	一般財源	690	報償費	389
				費用弁償	89
				需用費	212

（前年度予算　759　）

2 事業背景・目的

様々な情報メディアの発達や生活環境の変化などにより、活字（図書）離れが懸念されている中、市民の多様なニーズに対応し魅力ある図書館とするため、蔵書の充実を図り、市民の生涯学習の拠点となる図書館を目指します。

図書館での魅力的なイベントを積極的に開催することで、まだ来館したことがない潜在的な利用者を掘り起し、図書館利用率の向上に繋げます。

ソフト・ハード両面の充実を図り、図書館の利用向上につながる方策を実現し、更なる図書館の利用率向上に努めます。

3 事業概要

平成21年7月に開館した飛騨市図書館が10周年を迎えることから、記念事業を実施するほか、様々な企画を実施します。

・飛騨市図書館開館10周年記念事業
　　小説作家等による講演会（予定）
・図書館閉館後イベント（おとなの時間、としょかん音楽会）
・ハロウィン企画（バルーンアート、吹奏楽セッション）
・絵本作家講演会（児童向け読書推進）
・図書館企画講座（歴史講座、健康・文学講座、天文学講座）
・親子読み聞かせ会（ひよっこひろば、やんちゃっこタイム他）

（款）	10 教育費	（項）	4 社会教育費	（目）	6 図書館費
所　属	教育委員会事務局文化振興課　℡0577-73-7496			予算書	P. 127

拡充　桜ヶ丘体育館健康増進トレーニング室の整備

1　事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
18,200	合併基金	17,900	工事請負費	13,400
	一般財源	300	備品購入費	4,800

（前年度予算　　5,400　）

2　事業背景・目的

市民の健康づくり、生きがいづくりの観点から、スポーツ施設等におけるトレーニングの需要が高まっており、当施設においても、ランニングマシン等有酸素系器具の増設に対する要望が強く、あわせて、有酸素系トレーニング室と筋力系トレーニング室の分離という要望もあります。

当施設の利用者の中にはパワーリフティングの全国大会優勝選手がみえるなど、競技者のトレーニングとしても活用される施設であることから、競技者と一般利用者それぞれの要望にあった器具を整備するとともに、あわせて、老若男女どの世代の方々にも気軽に運動できる環境を整えるため、施設全体を一体的に整備します。

3　事業概要

①【新規】桜ヶ丘体育館健康増進トレーニング室の整備（13,400千円）

トレーニング室の分室工事により、有酸素系トレーニングと筋力系トレーニングとの利用区画を整理し、競技者と一般利用者それぞれが利用しやすい環境を整えます。

②【継続】桜ヶ丘体育館健康増進トレーニング機器の購入（4,800千円）

スポーツ施設整備計画に基づき、一般利用者向けとしてランニングマシン、エアロバイク等の有酸素系器具を、競技者向けとして筋力強化系器具を増設します。

（款）	10 教育費	（項）	5 保健体育費	（目）	3 体育施設費
所　属	教育委員会事務局生涯学習課　℡0577-73-7495			予算書	P.131～132

新規　スポーツ施設の計画的な整備及び改修

（飛騨市屋内運動場整備検討委員会の発足及び古川トレーニングセンター整備他）

１ 事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
17,502	合併基金	16,600	工事請負費	7,900
	一般財源	902	需用費	3,700
			委託料	2,561
			その他	3,341

（前年度予算　　0　）

２ 事業背景・目的

市内では各地域において盛んにスポーツが行われ、市民の健康づくり、生きがいづくりのためにも更なるスポーツの振興を図る必要がある一方で、施設のニーズ多様化や老朽化などが課題となっています。このため、スポーツ施設整備計画に基づいた施設の改修を計画的に行い、市民の皆様が気軽にスポーツができる環境を整備します。

３ 事業概要

① 飛騨市屋内運動場整備検討委員会の発足（341千円）

全天候でスポーツが楽しめる新たな運動場の整備に向け、関係者による検討委員会を設置し、建設場所や施設の内容等について検討を行い、次年度以降の整備につなげます。

② 古川トレーニングセンターの整備（5,561千円）

屋根の雨漏り対策やトイレ洋式化等改修のための設計業務を行い、また、柔道場の畳入れ替えを行います。

③ 桜ヶ丘体育館床の改修（7,900千円）

ささくれ等が目立つ体育館の床面損傷部分を修復し、安全なフロアに改修します。

④ サンビレッジ神岡の屋根修繕（3,700千円）

屋根の経年劣化により落雪式が機能していないことから、屋根の塗装修繕を行います。

（款）	10 教育費	（項）	5 保健体育費	（目）	3 体育施設費
所　属	教育委員会事務局生涯学習課　℡0577-73-7495			予算書	P.131～132

拡充　ノルディックウォーキングの普及推進

１ 事業費（単位：千円）

		【財源内訳】		【主な使途】	
	477	一般財源	462	委託料	300
		参加者負担金	15	助成金	100
				その他	77

（前年度予算　370　）

２ 事業背景・目的

市民の健康意識の高まりを踏まえ、年齢を問わず気軽に取り組むことのできるノルディックウォーキングを普及・推進させるため、平成30年度には飛騨市４町に推奨コースを策定し、また、専用ポールの配布や年５回の教室を開催するなど、競技人口の拡大を図りました。現在では公認指導員による自主的な教室が第２・第４日曜日に定期的に開かれるなど、競技人口は確実に増えています。

平成31年度は、新たなイベントにより競技の周知を図るとともに、指導員の発掘・養成をおこない、更なる市民の競技人口の拡大を図ります。また、介護予防やリハビリ等に興味のあるシニア世代はもちろん、特定保健指導該当者でスポーツに苦手意識をもっている方にも普及活動を行い、健康増進事業の底上げを図ります。

３ 事業概要

①　【新規】ひだノルディックウォークフェスタ2019（仮称）の開催（300千円）

ノルディック・ウォーク連盟公認指導員が主体となり、古川町内で「第１回ひだノルディックウォークフェスタ2019（仮称）」を開催し、市民と全国から募る愛好家との交流を深める情報交換の場としてイベントを開催します。

②　【継続】教室等の開催による普及（77千円）

高齢者等の参加者のレベルに合わせて無理なく、効果的な指導を行うために、ノルディック・ウォーク連盟公認指導員とスポーツ推進委員が講師となり各町で年１回以上教室を開催します。

③　【継続】指導員の養成（100千円）

一般社団法人全日本ノルディック・ウォーク連盟が主催する指導員講習会の受講費用45,000円のうち20,000円を助成します。（５名程度）

（款）	10 教育費	（項）	5 保健体育費	（目）	2 保健体育振興費
所　属	教育委員会事務局生涯学習課　℡0577-73-7495			予算書	P.130～131

新規　ねんりんピック岐阜 2020 リハーサル大会の開催

1　事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
1,000	一般財源	1,000	負担金	1,000

（前年度予算　　0　）

2　事業背景・目的

平成32年度に岐阜県において第33回全国健康福祉祭ぎふ大会「ねんりんピック岐阜2020」が開催されます。県では、県民の温かさと熱意、そして「オール岐阜」による心のこもったおもてなしで全国の皆さんをお迎えすることを基本方針に「清流に　輝けひろがれ　長寿の輪」をスローガンに掲げ、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした「スポーツ・文化の振興」につなげる大会、「健康長寿」の素晴らしさを確かめ合う大会、「地域共生社会」実現の契機となる大会を大会目標としています。飛騨市においてはサッカー競技が行われる予定であり、2020年の開催に向けたリハーサル大会を行います。

3　事業概要

市内のスポーツ関係者で構成する飛騨市実行委員会を組織し、平成31年度開催地である和歌山県への視察や、リハーサル大会「飛騨市シニアサッカーカップ（仮称）」を開催します。

（款）	10 教育費	（項）	5 保健体育費	（目）	1 保健体育総務費
所　属	教育委員会事務局生涯学習課　℡0577-73-7495			予算書	P. 130

拡充　飛騨市公民館講座の体系化と各団体の紹介支援

1　事業費（単位：千円）

	【財源内訳】		【主な使途】	
5,000	一般財源	4,176	謝礼	1,631
	参加者負担金	824	印刷製本費	1,000
			その他	2,369

（前年度予算　　3,589　）

2　事業背景・目的

市では公民館を生涯学習の拠点施設と位置づけ、利用者に寄り添ったサービスの提供や館内展示、各種講座を開催しています。生涯にわたって学ぶ意欲を活性化するために、公民館講座と自主講座のさらなる充実を図ります。

また、同講座を「飛騨市民大学」と位置づけ、半期ごとの体系的なプログラムを作成し、市民が選びやすく参加しやすい環境を整えるとともに、既存サークル等の紹介を行うことで、新規会員獲得の支援を行います。

3　事業概要

①　【拡充】公民館講座の推進（4,446千円）

公民館講座では、地域づくり・ひとづくりを進めるため、「山中和紙」「蚕糸」など地域の宝を再認識する講座や地域の人材と資源を活かした講座を展開し、郷土文化を知る機会・体験する機会を提供することにより、郷土への愛着の醸成を図ります。また、公民館内での座学にとどまらず館外での活動を取り入れ、学習内容がより印象深いものとなる講座を積極的に開講します。（館外学習5講座を含む50講座を実施予定）

②　【拡充】自主講座の推進（146千円）

市民自らが講師となる「誰でも自主講座」では60講座500名の参加を目標として開催し、自ら学ぶ生涯学習活動を促進して学習参加者の増加と講師の育成を図ります。また、既存サークルの実態を調査し市民へ紹介する生涯学習情報誌を作成発行し、新規会員が増加するよう既存サークルの活動の支援を実施します。

（款）	10 教育費	（項）	4 社会教育費	（目）	2 生涯学習振興費
所　属	教育委員会事務局生涯学習課　℡0577-73-7495			予算書	P.124